

第1回定例会

予算特別委員会の審査報告要旨と質疑の
主なものの要約を掲載しました。

- ・ 予算特別委員会審査報告
- ・ 予算特別委員会質疑の中から

予算特別委員会審査報告 (要旨)

緊急性・将来性・効率性など十分な精査を
され、安全安心なまちづくりを願う

本年度の一般会計予算総額は、53億3516万円、前年対比では9億2613万円の増額で21%の伸びとなっております。

予算増の主な要因としては、佐呂間農協が事業主体のTMRセンター建設事業に対する補助、若佐公営住宅建設道路整備事業などです。歳入としては、地方交付税が23億円、町税は景気低迷等により横ばいで、各種基金の繰入により収支のバランスをとっているのが実情です。

特別会計においては、6会計合わせた予算総額が22億900万円で、前年度より2億7315万円の減少で、簡易水道会計で、浜佐呂間簡易水道事業が終了したことが大きな要因です。

本年度の歳出は、新たな行政課題も考慮しながら緊急性、将来性、事業の必要性、妥当性に十分な配慮がなされているものと理解するものであ

り、歳出においては行財政改革の継続を図り、健全財政の堅持に努められていることが伺えるものであります。

歳入においては、普通交付税と特別交付税の配分の見直しが行なわれ、国勢調査人口の減少による影響も想定されます。また町税についても国内景気低迷等により増収を見込むことは難しく、厳しい経済情勢であることを認識せざるを得ません。

当委員会といたしましては、今後益々厳しくなる地方財政において、経費の削減はもちろん、行政のなすべきことを再確認し、緊急性、将来性、効率性などを十分に精査され、安全安心で住みよいまちづくりを願うものであります。

以上、付託されました平成23年度一般会計予算、各特別会計予算は原案可決と決定しましたので報告します。

予算特別委員会質疑の中から

総務費

(質) 除雪センターの職員体制について、昨年退職者を1名嘱託として雇用しているが、今後

はどうするつもりか。
(答) 今年の退職者も嘱託として雇用して、4名体制は維持し、この4名体制が組める間は直営で持っていこうという考えです。

(質) 北海道自治体情報システム協議会負担金2357万円の内容は。

(答) 全道で31町村が加入している協議会で、住民記録、税関係、財務会計、上下水道等の電算システムに関する経費を昨年までは1800万円ほど負担していたが、平成24年から外国人の住民登録が制度化されることでシステム改修のため今年は550万円ほど増額となるものです。

(質) デジタル移行に伴う難聴地域の解消は。 視

(答) 町では3箇所のデジタル中継局の整備をしたが、受信できない世帯は、今まで把握している中で6件あり、このうち4件は受信可能となり、

民生費

(質) 社会福祉協議会の運営費補助金で125万円の増額

要因は。
(答) 共同募金の車両購入費300万円のうち75万円の負担と給料のベースアップ分の36万円が主な増額の要因であります。

(質) 高齢者対策事業の中で外出支援サービス委託料とは

か。
(答) 昨年10月から開始の人工透析の移送サービス、在宅で寝たきりの方の病院への通

第1回定例会

・予算特別委員会質疑の中から

衛生費

(質) 厚生病院の損失負担金については国からの助成はあるのか。

(答) 公的病院に係る損失補てんについては、国からの特別交付税として、佐呂間厚生病院のベッド数が67床で、最大で1億1700万円までの損失について交付税をもらうことが可能でした。

しかし今後は、厚生クリニックということで、ベッド数がゼロとなるので交付税は当たらないこととなります。

(質) 知来の一般廃棄物処理の残余年数は、

(答) 簡易的な調査では、傾斜

農林水産業費

(質) 有害鳥獣駆除の報奨金は町外のハンターには出ないのか。

(答) 夏場は町で有害鳥獣駆

除の許可を取っているので町内の猟友会の人だけが駆除できます。冬場の狩猟期間は町外の人も駆除は可能だが、町内をよく知る猟友会の方が取ったものを確認し報償費を出しています。

また今年の予算では、佐呂間町の猟友会と判るようにならざるようになり、有害鳥獣

商工費

(質) 悠林館の指定管理者は施設の周辺整備をすべきでないのか。

(答) 大石社長とも話をしているが、お客を迎える形から少しの時間でも草刈をしたリ、また、庭に砂利を敷いてプランターを置くなどの方法も考えられます。経営は以前として厳しいが、5月頃には経営状況も報告したいと考えて

土木費

(質) 新築となる若佐公普住

の募集はいつするのか。

(答) 公住の建て替えとなるので、現在入居している方の住み替えが優先となります。現在10戸の入居者の内6戸が入居を希望しているので残り2戸分が一般募集となる予定です。

完成は12月上旬を予定しており、10月下旬から11月までには入居者の募集をする予定です。

消防費

(質) 佐呂間厚生病院の無床化により救急車2台による救急

体制で問題はないか。

(答) 救急の年間件数は230回でそのうち10件程度は重複で入っています。救急車2台のうち古いものは高規格救急に入れ替えてもらい、隊員についても2名増員の15名体制となりました。

万が一救急車が足りないとときには湧別や生田原、遠軽から入ってくる体制となってい

教育費

(質) 学校給食の地場産品の活用と高校生への給食の提供

の考えは。

(答) 21年度の食材費1700万円の内、佐呂間産の使用は19%、22年度は2月末で1700万円の内2.6%の使用率で、ホタテ等の水産物と玉ねぎ、カボチャ、ブロッコリー等の野菜等が主で、23年度は佐呂間ポークも利用したいと考えています。

高校生の給食利用は、給食センターが文部科学省の補助施設であることや、現在の施設では消毒のスペースに余裕がないことなどもあり、現時

簡易水道

(質) 今後の簡易水道事業の

画はどのようになるのか。

(答) 浜佐呂間地区は22年度で終了し、北富地区は5年間で15億円程度、その後は若佐地区で調査費はつけていませんが10年間で18億から20億円ぐらいで全てを整備したいと考えます。